国

国　　語

（9：10～10：00）

注　　意

1　検査開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。

2　問題用紙の1ページから13ページに、問題が一から四まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。

3　問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。

4　答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第　　番

一　次の問いに答えなさい。

1　次の(1)～(6)の㋐～㋕について、漢字には読みを書き、カタカナには
それに当たる漢字を書きなさい。

(1)　意見を㋐簡潔に述べる。
(2)　ウェブサイトを㋑閲覧する。
(3)　海外進出を㋒企てる。
(4)　友人の活躍を㋓キタイする。
(5)　荷物を受付に㋔アズける。
(6)　㋕ケワしい山道を登る。

2　「夏休みに作文を書く。」の「作文」と熟語の構成が同じものを、
次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア　国立　　イ　売買　　ウ　善良　　エ　防水

3　「美しい里山の風景を眺める。」の「美しい」の品詞名を、次のア
～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア　動詞　　イ　形容詞　　ウ　形容動詞　　エ　副詞

問題は、次のページに続きます。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⓐそれでいいんだって言われた気がした。

その丸い瞳はまるで水晶のようで、ふわふわの毛は上等な真綿のようで、私は目の前にいる子猫にすっかり心を奪われてしまった。ただそこにいるだけなのに。確かな生命を宿して動いていることが、なんだかすごく嬉しかった。

「こんなこげ茶色の毛は珍しいのよ。」

顔をほころばせながら、多津子さんが言った。

多津子さんはお母さんの妹で、私の叔母にあたる。保護猫の活動をしていて、我が家にもその「ご縁」が訪れたのだ。

お母さんと多津子さんは、子どもの頃から何度か猫と暮らしたことがあるらしい。でも私にしたら、今までうちにいた生きものは夏祭りの屋台ですくってきた金魚だけだ。体温のある動物は初めてで、私の隣でお姉ちゃんも興奮を隠せずにいる。

生まれてから一カ月ぐらいの男の子だというその子猫は、多津子さんの腕に抱かれてあたりをきょときょと見回している。そのサイズ感といったら、私の手のひらに載っちゃうんじゃないかと思うくらいに小さい。トライアルといって、二週間、共に生活してから正式に迎え主になるかどうかを決めるのだという。

①早く二週間が過ぎないかな。この子が安心できるように、信頼してもらえるように、私は何をすればいいんだろう？

家に帰ってきたらこの子がいるなんて、ずっと一緒に過ごせるなんて、幸せすぎる。この春、中学生になったばかりの私への、神様からの入学祝いなのかもしれない。

多津子さんが、カーペットの上に子猫をそっと下ろした。私は思わず、なでたくなって手を伸ばす。子猫はびくっと体を震わせて顔を上げた。

お姉ちゃんが「こわがらせちゃダメじゃん。」と言う。こわがらせたつもりはないし、お姉ちゃんの言い方も気に入らないけど、もしそうだったらごめん。私が手を引っ込めたのと、お姉ちゃんがさっと子猫を抱き上げたのとが、同じタイミングだった。

子猫がいやがるふうでもなく、おとなしくお姉ちゃんの胸におさまったので、私はざらついた気持ちになる。いつもそうだ。お姉ちゃんは、私のやることなすことにケチつけて、自分のいいように事を運んで、得意がっている。

でも、そんなとげとげした感情は、子猫のピンク色の肉球を見ていたらやわらいでいった。

まあ、いいや。早い者勝ちってわけじゃないし。ちょっとずつ仲良くなればいい。

多津子さんは私たちに注意事項を説明してくれたあと、お母さんと少し世間話をして、壁掛け時計を見やると立ち上がった。

玄関まで見送ろうと私も立つと、多津子さんは「ああ、そうだ。」とバッグの中に手を入れた。

「はい、分けて食べてね。」

手渡されたのは、一枚の板チョコだった。私はそれを受け取り、「あ

りがとうございます。」と頭を下げる。
わざわざ買ってきてくれたというよりは、多津子さんも誰かからもらって、そのまま流してきたという感じだった。どこでもよく見かける。背駒染みのミルクチョコレート。
「それじゃ、また来るわね。」
多津子さんは片手を振り、居間から出て行く。お母さんが玄関までついていった。
私は板チョコを手にしたまま、子猫を見ながら思った。
チョコ。
この猫、チョコレート色だ。そうだ。
「ねえ、名前、チョコにしようよ。」
名案だと思って私がもちかけると、お姉ちゃんは［　　］。
「そのまんますぎじゃない？　チョコだと女の子っぽいし。」
そしてちょっと考えてから、こう言った。
「カカオ、とか。うん、カカオにしよう。」
もう決定みたいに、お姉ちゃんは子猫を「カカオ～。」と呼んだ。えらそうにされてムカつくけど、でもたしかに、ちょっとひねりが利いていてオシャレな感じがする。この子にはそのほうがしっくりくる気がした。
お姉ちゃんにはいつもかなわない。認めたくないけど。
お姉ちゃんと私の年齢はひとつしか違わない。「年子」というやつだ。だからもちろん、私はお姉ちゃんと初めて会った日のことなんて覚えていない。

私が生まれたときに産院で一緒に撮った家族写真はあるけど、お姉ちゃんだってまだ赤ちゃんと言っていいぐらいで、妹という闖入者が現れた事情を理解もしていなかったと思う。同じ状況になったときの心境なんて、たやすく想像できる。
多津子さんから「分けて食べてね。」と言われた板チョコ。
正直に言うと、私はこんなふうに「分ける」というのが苦手だ。あらかじめ数がはっきりしているならともかく、きっちり等分にならないものは本当に困ってしまう。
板チョコなんて、その最たるお菓子だ。ブロックには溝が刻まれているけど、私はこれを上手に割ることができない。
だからといって、たとえばこっそりひとりじめするのもつまらないと思う。そんなことしたって、楽しくなくて美味しくないって知ってる。
お母さんが戻ってきて、子猫用のお皿にお水を入れて床に置いた。子猫は身をよじらせてお姉ちゃんから離れる。
お姉ちゃんは、子猫が行ってしまったことには未練もなさそうに、私のほうへ向き直った。
「チョコ、食べようよ。」
私はうなずき、外側の包装紙をはがした。チョコレート全体をくるんでいる銀紙が、蛍光灯に照らされてまぶしく目に映る。
「この銀紙って、けっこうやっかいだよね。」
私が言うと、お姉ちゃんはかぶりを振った。
「でも、品質保持のためにはやっぱり板チョコには銀紙がないとさ。チョコって光にも水にも高温にも弱いし、ちょっと酸素に触れただけで香

りも飛んじゃうから。あと、防虫とか。」
「……扱いづらいお菓子だね、チョコって。」
「そうだね。だけど、チョコには充分な実力があるから、これくらい大事にされて然るべきなんだよ。」
お姉ちゃんはおおまじめに言った。
そう、お姉ちゃんは、まじめな人なんだと思う。すぐあきらめたくなっちゃう私とは違って。あの自信みたいなものは、ちゃんと努力してるからだ。そして、私にはうまく説明できないけど、言ってることがたまにちょっと深い。
私はお姉ちゃんに嫉妬しながら、反発しながら、絶対こんなふうになりたくないとか思いながら、すごいなって、尊敬もしている。お姉ちゃんがちょっとでも落ち込んでいるとすごく心配になるし、たとえ私のことをばかにしながらだって、元気で笑っているほうがほっとする。
私はやっぱり、お姉ちゃんのことが大好きなのだ。きっと生まれたときから。
姉妹関係の不可解で複雑な思いは、板チョコみたいに割り切れない。私はお姉ちゃんに対するいろいろな気持ちを、薄い銀紙で守っている気がする。
「きれいに割るの、難しいよ。」
銀紙で光る板チョコを持ったまま、私がもたもたしていると、お姉ちゃんが「貸して。」と奪っていった。
テーブルの上にお皿を置き、お姉ちゃんは華麗な手つきで板チョコと向き合う。

お姉ちゃんはきっと、上手に割るコツとか知ってるんだろう。ていねいに、均等に。
そう思いながら②お姉ちゃんの手元を見ていたら、銀紙ごと威勢よくばきばきっと割り出した のでびっくりした。お皿の上には、破れた銀紙がついたままの不揃いなチョコのかけらがある。きっちりと、家族の人数分。
「きれいに割れなくたっていいじゃん。みんなで食べれば、美味しいのは変わらないよ。」
私は思わず吹き出してしまった。
きれいになんか、割れない気持ち。それでいいんだって言われた気がした。
そうだよね。私がお姉ちゃんのことを、結局大好きなのは変わらないんだもの。
生まれてからまだ間もない子猫は、これから私たちのことを、家族と思ってくれるだろうか。
今日の日のこと、大きくなってからも覚えていてくれるかな。
だけど、出会ったときのことを忘れてしまうくらいに、私たちと暮らすことが当たり前の自然なことになってくれたら、もっといい。
チョコレート色の気高い輝きを、私は少し離れたところからそっと愛でた。

（青山美智子「チョコレート・ピース」による。）

（注）闖入者＝突然、断りもなく入り込んできた者。

1 ①早く二週間が過ぎないかな とあるが、「私」がこのように思ったのはなぜですか。四十字以内で書きなさい。

2 ［　　］に当てはまる最も適切な表現を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 目を細くする　イ 首をひねる
ウ 指をくわえる　エ 膝を打つ

3 Ⓐそれでいいんだって言われた気がした とあるが、これについて、国語の時間に、生徒が班で話し合いをしました。次の【生徒の会話】はそのときのものです。これを読んで、空欄Ⅰに当てはまる適切な表現を、三十字以内で書きなさい。

【生徒の会話】

清水：　この小説は、この言葉で始まるけれど、「それでいいんだ」とは、どういうことで、なぜこの言葉が小説のはじめにあるのだろう。

川上：　この小説の中で重要な意味をもつ言葉なのかな。

村上：　この小説では、子猫が家にやってきた日に、妹が姉とのやりとりの中で抱く気持ちが描かれているよね。

藤井：　そうだね。「それでいいんだ」とは、姉の言動を見聞きした妹が、（　　Ⅰ　　）と思えたということだと思うよ。

清水：　なるほど。この小説において重要な言葉なのかもしれないね。

4 ②お姉ちゃんの手元を見ていたら、銀紙ごと威勢よくばきばきっと割り出した とあるが、次の【文章A】は、この場面に至るまでを姉の視点から描いたものです。【文章A】を読んで、あとの(1)・(2)に答えなさい。

【文章A】

子猫は私に抱かれながら、あたりを見回している。不安と好奇心が混じって光る、透き通った丸い瞳で。

あったかい命のかたまりを感じていたら、じんわりと心がほぐれていった。

そして、妹に対してイヤな言い方をしてしまったな と、反省した。

「そうでなければならない」「そうしてはいけない」って、私の口グセだし、思いグセだ。相手に対しても、自分に対しても。

本当は優しくしたいのに、良くないことだとわかっているのに、何度も「しまった」と思うのに、どうしてNGばかりの強い口調になってしまうんだろう。

お母さんが水の入った皿を運んでくる。

子猫が腕から降りていったので、私は妹に声をかけた。

「チョコ、食べようよ。」

妹はうなずいたけど、板チョコの包みをはがしながら、きれいに割るのが難しいと言って苦戦している。

きれいに等分して割らなくてはいけない、なんてことはないのだ。

凝り固まった自分のルールを、ここでちょっと割ってみよう。

私は妹から板チョコを受け取り、勢いよくばきばきと割った。

（青山美智子　「チョコレート・ピース」による。）

(1) 妹に対してイヤな言い方をしてしまったな とあるが、具体的には本文中のどの発言ですか。最も適切な発言を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 「こわがらせちゃダメじゃん。」
イ 「カカオ、とか。うん、カカオにしよう。」
ウ 「チョコ、食べようよ。」
エ 「そうだね。だけど、チョコには充分な実力があるから、これくらい大事にされて然るべきなんだよ。」

(2) 次の【ノート】は、ある生徒が、本文と【文章A】を読んで、この場面についてまとめたものです。空欄Ⅱに当てはまる適切な表現を、二十五字以内で書きなさい。また、空欄Ⅲに当てはまる適切な表現を、五十字以内で書きなさい。

【ノート】

○姉がチョコを割る場面の比較

妹は、姉がチョコを（　　Ⅱ　　）割るだろうと思っていたが、実際には、銀紙ごと威勢よく割り出した。

姉は、（　　Ⅲ　　）という思いから、チョコを勢いよく割った。

問題は、次のページに続きます。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんにも、「弱ったな、どうしたらいいか全然わからないぞ」と思った経験があるのではないでしょうか。例えば、数学の問題を解いているとき、外国語で話しかけられたときなど、自分にとって解決が難しい問題に直面したときに、よくこういう気持ちになりますね。逆に、クイズの答えが分かったときや、問題解決の糸口が見つかったときに、「わかったぞ！」とか「ああそうだ、これで解決できるぞ！」と嬉しくなった経験もあるのではないでしょうか。

こういった経験は、私たちが自分自身の頭の中がどういう状態になっているかを把握しているということを表しています。「頭の働き」のことを「認知」と呼びますが、「わかった」とか「わからない」といった感覚は、私たちが自分自身の「認知」を把握しているということを指しています。「認知を把握する」ことも「頭の働き」ですから、これは「認知」の「認知」ということになります。この表現ではわかりにくいので、自分の頭の中がどうなっているかを適切に把握することは「メタ認知」と呼ばれています。「メタ」というのは「一段上の」という意味です。ですから、メタ認知は「（認知の）一段上の認知」という意味になりますね。

メタ認知をうまく働かせることは、さまざまな課題を実行したり、問題を解決したりするうえでとても重要です。数学の問題を解いているときの例でいうと、「わからない」ということに気づけば「違う解き方をしてみよう」とか「もう一回教科書の例題を確認しよう」といったように、自分の取り組み方を変更するきっかけを作ることができるからです。英単語や資格試験で必要な知識などを覚えようとしているときも、「まだ覚えられていない」ことがわかっていれば「もう少し勉強しよう」と勉強を続ける判断をしやすくなりますが、まちがって「もう大丈夫」と考えてしまったら「勉強は終わりでいいや」と判断してしまうでしょう。よりよい理解のためにはメタ認知が適切に働いて「わからない」ことが分かることが重要だと言えます。「わかった」「わからない」のような、頭の中の現状把握をする働きを、特に「メタ認知的モニタリング」と呼んでいます。

メタ認知的モニタリングで「わからない」ことが把握できたとして、それで終わっては意味がありません。「違うやり方でやってみよう」と方向性を変えたり、「このままもう少し続けよう」と継続したりする判断ができることも重要です。このとき、自分の進む方向を指し示すような頭の働きは「メタ認知的コントロール」と呼ばれています。

①メタ認知的モニタリングとコントロールそれぞれがうまく働き協調することで、私たちはよりうまく問題に立ち向かうことができるのです。しかし、これがうまくいくためにはいくつか必要な知識があります。そのうちの一つが、「人に関する知識」です。たとえば、「電話番号を一回聞いただけで覚えるのは難しい」とか「睡眠不足だと頭が働かない」というような人間一般の認知のあり方について、あるいは「自分が一番集中して勉強できるのはリビングのテーブルだ」というような自分自身の認知のあり方の特徴についてわかっていることがモニタリングやコントロールに関わる「人に関する知識」です。

また、「課題に関する知識」も重要です。例えば、取り組もうとしている課題がどのくらい難しいかが分かることは、モニタリングをうまく働かせるためには特に重要です。

さらに、「方略に関する知識」も適切なモニタリングとコントロールには必要な知識です。ある問題を解くためにどのようなやり方ができるのか、今自分はどのようなやり方をしているか、どんなやり方に変更できるか、知識がなければ判断することができません。

ここまで、メタ認知について、「問題を解いている状況」やなにか「解決したい課題があるとき」を念頭にお話ししてきましたが、文章を読んでいるときも、メタ認知の働きは重要です。たとえば、あなたが、ここまでの説明を読んで「なんだか抽象的でよくわからないな」と思っているとしたら、それは読解においてあなたの「メタ認知的モニタリング」が（おそらく適切に）働いているという証拠です。このモニタリングを受けて「もう一回読んでみよう」とか、「別の本に説明があるか見てみよう」「例えばどういうことか自分で例を挙げてみよう」などいくつかのやり方が思い浮かんだとすると、それは前に書いたような知識を使いながらメタ認知的コントロールが働いているということです。「わからない」ということが適切に把握できたとしても、その先どうするか、うまくコントロールするためには［　　］も必要であるということです。

メタ認知はうまく働いてくれるときばかりではありません。人はときに「わかったつもり」になってしまって、自分がうまく理解できていないことを見逃したり、「わからないな」と把握しても「まあいいか」と放置してしまうこともあります。

たとえば、②文章の中に明らかな矛盾があっても、その矛盾を無視してしまうというメタ認知的モニタリングの失敗が起こることがあります。子どもの認知についてたくさんの研究をしたマークマンは、小学校三年生に次のような文章を読ませて、こうした失敗が生じることを示しています。

アリは遠くまで出かけるので道に迷わないように特別な方法を使います。帰り道を見つけられるように、目に見えない印をつけるのです。アリたちはどこかに行くと体から特別な化学物質を放出します。この化学物質は目に見えませんが、特別な臭いがあります。この化学物質の臭いを嗅ぐための鼻が必要です。アリに関してほかのお話をすると、アリには鼻がありません。アリは、決して道に迷いません。

大学生はこのような文章を読むとすぐに「おかしい」と気づきますが、小学生の多くはこの矛盾に気が付きません。この研究の面白いところは、「なにか筋が通らないところがあるかもしれません。筋が通らないというのはこういうことです」と説明してから矛盾点を見つけるように指示すると、小学生も矛盾を見つけられるというところです。つまり、小学生だから記憶力が少ないのだろう、とか矛盾することが理解できないのだろう、という推測は誤りで、「矛盾するところを見つけよう」という心の準備をすれば、適切にメタ認知的モニタリングを働かせることができるということです。

（犬塚美輪「読めば分かるは当たり前？」による。）

1　［　　］に当てはまる最も適切な語を、この文章の第三段落以降から二字で抜き出して書きなさい。

2　①メタ認知的モニタリングとコントロールそれぞれがうまく働き協調するとあるが、これはどのような頭の働きですか。四十字以内で書きなさい。

3　②文章の中に明らかな矛盾があっても、その矛盾を無視してしまうというメタ認知的モニタリングの失敗が起こることがありますとあるが、これについて、国語の時間に、生徒が班で話し合いをしました。次の【生徒の会話】はそのときのものです。これを読んで、あとの(1)・(2)に答えなさい。

【生徒の会話】

和田：　本文の事例においては、筆者が述べていることによると、メタ認知的モニタリングの失敗は、（　　Ⅰ　　）によって防ぐことができるといえそうだよ。

青木：　そうだね。文章を読むときには、気を付けるとよいね。これは、文章を推敲するときにも役立ちそうだね。

西田：　確かに。このことに気を付けて、この前書いた意見文をお互いに読み合ってみようよ。

(1)　空欄Ⅰに当てはまる最も適切な表現を、本文中から二十二字で抜き出して書きなさい。

(2)　西田さんと青木さんは、会話のあとにお互いの意見文を読んで、アドバイスを行うことにしました。次の【意見文】は、西田さんが書いたもので、あとの【アドバイス】は、青木さんが、西田さんに対して行ったものです。これらを読んで、空欄Ⅱに当てはまる適切な表現を、百字以内で書きなさい。

【意見文】

私は、人に何かを伝えるときに一番大切なことは、誤りのない正確な表現で伝えることだと考えている。伝えたいことがあっても、誤りのない正確な表現でなければ、伝えたいという思いだけでは、絶対に相手には伝わらない。

私がこのように考えるのは、海外からの観光客から英語で道をたずねられた出来事がきっかけとなっている。そのとき、誤りのない正確な表現で伝えることができなかったが、精一杯伝えようと努力した。すると、私の伝えたいという思いが通じたのか、私の伝えたいことを伝えることができた。観光客の方からは、とても感謝してもらえ、私も伝えることができてうれしかった。

【アドバイス】

西田さんが書いた意見文について、文章の筋が通っているかという観点からアドバイスすると、（　　Ⅱ　　）になっているため、筋が通らないと思うよ。

問題は、次のページに続きます。

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

花山院右大臣、或夜の夢に、摩利支天(注1)枕上に立ち給ひて、「汝(なんぢ)(おの前)

司位は高けれども宝には貧し。もし我を祭らば、七珍万宝心のままなるべし。」と正しき告げ有りしを、大臣は何とも思ひたらで居給ひしに、

（司位は官位は高いけれども　思わないでいらっしゃったところ）

三夜までうち続きて同じ様に見えければ、親しきあたりに②かく と物(お話)

語られしかば、人々有り難き事に思ひて、③「いざ疾く祭り給へかし。」

（しになったところ）

といひければ、「いやとよ、朝(注2)に仕へる身は、清きを願ひて貧しきを厭(いと)はず。」とて、終に④祭り給はざりし とぞ。

（「落栗物語」による。）

（注1）摩利支天 ＝ 神の名前。
（注2）朝 ＝ 朝廷。

1　①給ひて の平仮名の部分を、現代仮名遣いで書きなさい。

2　②かく はどのようなことを指していますか。現代の言葉を用いて、四十五字以内で書きなさい。

3　③「いざ疾く祭り給へかし。」とあるが、次の文は、この発言について述べたものです。空欄Ⅰ・空欄Ⅱに当てはまる最も適切なものを、それぞれあとのア～ウの中から選び、その記号を書きなさい。

（　Ⅰ　）から（　Ⅱ　）に向けられた発言。

ア　花山院右大臣　　イ　摩利支天　　ウ　人々

4　④祭り給はざりし とあるが、それはなぜですか。現代の言葉を用いて、四十字以内で書きなさい。